

第15回 SKIP シティ国際D シネマ映画祭 (その2)



上段左から『予定は未定』磯部鉄平監督/屋敷紘子(出演)・『Birth - おどるいのち -』若見ありさ監督/池田爆発郎監督/大橋弘典監督



『ヴィニールと鳥』野島健矢/宮田佳典(出演)/横田光亮(監督・出演)守谷周人(出演)

第15回 SKIP シティ国際D シネマ映画祭2018は、2018年7月13日(金)～7月22日(日)の10日間の日程で開催された。

この項では、主に短編部門の作品と写真で紹介する。

国際コンペティショングランプリ、『ナンシー』(アメリカ/クリスティーナ・チョウ監督)。

国内コンペティション優秀作品賞(長編部門)『岬の兄妹』(日本/片山慎三監督)。

国内コンペティション優秀作品賞(短編部門)『予定は未定』(日本/磯部鉄平監督)。

SKIP シティアワード『彼女はひとり』(日本/中川奈月監督)。

■国内コンペティション 短編部門

『Birth - おどるいのち -』Birth-The Dance of Life-

監督: 若見ありさ、池田爆発郎、大橋弘典
声の出演: 浜辺夏帆、池田爆発郎、岸本鮎佳 <2017年/日本/28分>

みんなドキドキ。出産をテーマに3人の作家が描いたオムニバス作品。

『Birth- つむぐいのち』に続き、出産を題材にしたドキュメンタリー・アニメーションの第二弾。本作では、外国で出産する母親、妻の初産に戸惑う夫、弟の誕生を待ちわびる娘、と三者三様の視点で映像化している。

●昨年、『Birth- つむぐいのち』がアニメー

ション部門に出品された若見ありさ監督の続編となった本作。前作に引き続き本作も3つの短編で構成されている。NHK みんなのうた「ひげヒゲびひボンボン」などを手掛けるクリエイターでもある大橋弘典が第一話『トルコで出産』を監督。第二話『H-H-F』を監督した池田爆発郎は2015年に「ボムフォー64」名義で本映画祭に出品して以来二度目の参加。第3話『ととちゃんがママのおなかに来てたくちゃんが生まれたときのこと』の若見ありさ監督は前作の出品に加え、2016年には本映画祭に審査員としても参加している。映文連アワード2017受賞作品。

■国内コンペティション 短編部門

『ヴィニールと鳥』Dumping Ground

監督: 横田光亮

出演: 横田光亮、宮田佳典、井口理、守谷周人、野島健矢、八坂直也、梶山里緒 <2018年/日本/31分><ワールド・プレミア>
立ち上がりたい、立ち上がって欲しい。手に入れた力を使うべきか。

同級生からのいじめに悩むジュンは、離れて暮らす兄を訪ねボクシングを習い始める。ジュンは着実に強くなっていくものの、同級生にも自分にも立ち向かえない。そんなジュンに兄はしびれを切らし…。

●いじめる側を鳥(カラス)、いじめられる側をビニールに例え、社会問題に真正面か

ら挑んだ本作。CO2助成作品『跡』(17)やndjc2014の選出監督たちで制作された『スクラップ スクラッパー』(17)などで俳優としても活躍する横田光亮の初監督作品。自分をいじめる同級生への復讐のため、ボクシングで体力と精神力を身につけていく主人公のジュンも監督が熱演。本作で、セリフがないにもかかわらず、表情と仕草だけでジュンの心情を反映させるという難しい役どころのアミに挑戦しているのは、新人の梶山里緒。ジュンとアミを意図的に接近させないことで、クラスや社会の中で、見えない味方がいるという監督からのメッセージが感じ取れる。

●国内コンペティション優秀作品賞(短編部門)『予定は未定』

Who Knows about My Life

監督: 磯部鉄平/出演: 屋敷紘子、辰寿広美、南羽真里、時光陸、白井宏幸、土佐和成、山中アラタ

<2018年/日本/27分>

まだ見ぬ未来の夫に向かって走れ! 独身アラフォー女性に贈る大人のコメディ。

40歳を目前にして独身の純子は、お節介な叔母からお見合いを勧められるがピンとこない。そんな彼女の元にある日、一枚の紙飛行機が飛んでくる。開くとそれは、男性の欄だけが埋められた婚姻届だった。

●主演の屋敷紘子が、こじらせ独身女子を



左から『あいつは、いつも寝てる。』魚住昇矢（出演）樽井隆広監督・『凧』川野邊修一監督／加藤園子／日高七海（出演）
審査員特別賞『口と拳』溝口道勇監督／塩川孝良（プロデューサー・出演）、

熱演している本作。大阪を中心として活躍する磯部鉄平監督は、若手ながら名古屋で過去の短編と合わせて特集が組まれるほどの人気監督。2016年SKIPシティアワード受賞作品『見栄を張る』では助監督を務めた。その磯部監督が、主人公演じる屋敷紘子で撮りたいと当て書きでシナリオを書き上げた。屋敷は『マンハント』（18）で、ジョン・ウー監督が彼女の動きを見て急遽役を変更したほどの実力派アクション女優。本作では、長身の彼女がコミカルな役を演じながら美しいフォームで街の中を駆け抜くが、アクション女優ならではの姿で、作品に躍動感を与えている。

『予定は未定』磯部鉄平監督コメント

僕は映画を始めるのが30歳ぐらいで、少し人より遅かったと思うのですが、そこから映画学校に入って、卒業後、映画を撮りたいなといいながら、うだうだと時を過ごしていました。映画制作のスタッフをしている時、女優の屋敷紘子さんと出会い、屋敷さんに出て欲しいと思い、この映画の脚本を書きました。2年前にこの映画祭でSKIPシティアワードを取った『見栄を張る』（藤村明世監督）で助監督をしていました、その映画で若い女性監督が監督している姿を見て、自分もやっぱり監督をしようと思い背中を押されました。ですので、このSKIPシティ国際Dシネマ映画祭で賞を

いただけたのは、本当に嬉しいです。

■国内コンペティション 短編部門 審査員特別賞 『口と拳』

Lip and Fist

監督：溝口道勇 出演：高木千花、塩川フレディ、いいぐちみほ、深沢謙司、さとし、道廣オリヴィエー真

<2017年/日本/49分>

愛する人の過去。あなたならどうしますか？愛にもがく女子の葛藤ドラマ。

ピンサロ嬢として働く茜は、人に殴られることを生業にしている男と出会う。茜は男に同類意識を感じ、二人は街を飛び出す。男の過去を知ってしまい戸惑うが、茜は気づかないふりをして男についていく。

●殴られ屋とピンサロという裏稼業同士の男女の恋愛ストーリー。恋人が指名手配犯だったと知り、愛と生活の間で葛藤しつつ、先の見えない展開がスリリングに描かれている。第29回東京学生映画祭出品作品。犯罪者であるがゆえに表立って仕事に就けず橋の下で殴られ屋を営む影のある男・緑川を演じる塩川フレディは、本名の塩川孝良名義で溝口道勇監督と共同脚本としてもクレジットされている。冒頭の風俗街を抜けていくシーンから、ピンサロ、橋の下と、二人が過ごす時間は全て夜のシーンで構成されているが、主人公の女性が自分の答えを見つけた時、初めて日中のシーンが出て

くるなど、陰影が効果的に使われている作品。

■国内コンペティション 短編部門

『凧』Lull

監督：川野邊修一 出演：日高七海、加藤園子、板倉奈津子、小田篤、森田ひかり、小倉詩歩 <2017年/日本/27分>

失踪した友人を探す手掛かりは、二人の間に交わされた秘密の約束。

3年前に失踪した立花美華子から、同級生の相沢みずきに連絡が入る。警察は近隣の不可解な事件との関連を疑い、みずきを事情聴取する。取調べが進むうちに、みずきに美華子との思い出が蘇ってくる。

●映画美学学校卒業後、水戸短編映像祭で市長賞を受賞した『泥人』（13）で主演を務めるなど俳優としても活躍する一方で、監督として自主制作を続ける川野邊修一監督。主人公を務める日高七海は、2016年本映画祭の短編部門で観客賞を受賞した『想影』（16）や、ロッテルダム国際映画祭出品作『飢えたライオン』（17）に出演するなど近年活躍が目覚ましく、本作では、同級生に失踪のきっかけを与えてしまう主人公・みずきを演じる。失踪する少女・美華子を演じるのは、本作で渋谷短編映像祭の助演女優賞にもノミネートされた加藤園子。加藤と日高が演じる失踪する美少女と、その友人という関係は、GL的とも言えるミステ



『凧』川野遼修監督 / 加藤園子 / 日高七海 (出演)



『東京彗星』洞内広樹監督 / 大西利空 / 篠田諒 / 榎本“CHAMP”光永 (出演)

リアスな雰囲気を出している。

■国内コンペティション 短編部門

『あいつは、いつも寝てる。』

He is Always Sleeping

監督：樽井隆広 出演：岡田菜見、魚住昇矢、小縄優羅、水俣俊博、田中和弘
 <2017年 / 日本 / 27分>
 <ワールド・プレミア>

クラスのアイツと、放課後のアイツにギャップ萌え！

退屈な高校生活を送る花田真喜子。彼女のクラスにはいつも寝ている男子・乾がいる。ある日の下校途中、真喜子が乾の後をつけてみると、廃工場で何かに没頭している、いつもとは違う彼の姿があった。

●関西発の一風変わった青春コメディ。樽井監督をはじめ、ビジュアルアーツ専門学校・大阪出身スタッフを中心に制作された本作。終日学校で寝ているだけの高校生・乾を演じる魚住昇矢も同校出身。佇まいだけで見るものを引きつけてしまう彼の容姿も本作の見どころのひとつ。物語は、ポロポロになった自転車を引く乾を見かけた同級生の真喜子から始まる。家庭環境のせいでクラスにうまく馴染めない真喜子と、一見人畜無害に見え、寝てばかりいる乾。そんな二人を、樽井監督は5分以上かけた尾行シーンで接点を持たせる。この台詞もないシークエンスに長い時間をかけた樽井監督の大胆さとその後の想像もつかない乾の設定に、観客の心は驚掴みにされる。

■国内コンペティション 短編部門

『はりこみ』 Harikomi

監督：板垣雄亮 出演：池田香織、鳥谷宏之、板垣雄亮、鶴町憲
 <2017年 / 日本 / 28分>
 巧みな会話術で繰り広げる、上質な密室シチュエーション・コメディ。

深夜の住宅街で、3人の刑事が重要参考人を追って車で張込みをしている。無神経な若手刑事、面倒くさい女刑事、上司を気にする中堅刑事が、退屈な時間を潰すために取り留めのない話を続けている。

●原作は舞台脚本として作られた、ユーモア満載の会話劇。3人の刑事による、取るに足らない車中の会話がコミカルに描かれている。監督は、劇団殿様ランチを主宰する板垣雄亮。長年舞台で培ってきた板垣監督の脚本力は、張込み中の車内というワンシチュエーションで、最初から最後まで「何も起こらない時間」にも関わらず、観客者の笑いを誘う。女刑事を演じる池田香織は、藤井道人監督の『名もなき一篇』(14)で主人公の一人を演じるなど、着実にキャリアを積んでいる。張込み中の夜食にアンパンとお茶を買ってくるKYな後輩刑事演じる鳥谷宏之もまた、CM・舞台・映画と幅広く活躍中。2017したまちコメディ映画祭観客賞受賞作品。

■国内コンペティション 短編部門

『東京彗星』 TOKYO COMET

監督：洞内広樹 出演：大西利空、篠田諒、榎本“CHAMP”光永
 <2017年 / 日本 / 29分>

兄と離れたくない弟と、弟を守りたい兄

の切ない家族の物語。

一年後、東京に彗星が衝突すると発表された。ショウは、兄と暮らしていたが、自暴自棄になった兄はショウだけを学童疎開させることに。ショウは兄と一緒にいきたいが、結局ショウだけが岩手へ向かう。

●突然の災害予告の中で自分を見失う若者が、彼を慕う弟と、被災仲間のトラック運転手のおかげで再生していく物語である本作は、短編映画の制作から配給までをサポートするスカラシッププロジェクト・MOON CINEMA PROJECTの第二弾制作作品。電通クリエイティブXにてCMディレクターとして活躍している洞内広樹監督による映像は、CGやVFXが惜しげもなく使われていて見応え十分。彗星を避けて学童疎開させられる弟役を、山下敦弘監督による『ぼくのおじさん』(16)で松田龍平の甥役を演じた大西利空、絶望から這い上がっていく兄役を昨年の本映画祭で奨励賞を受賞した『追憶ダンス』(16)主演の篠田諒が演じている。

■国内コンペティション 短編部門

『ふっかつのじゅもん』 Eternal Haimi

監督：白井太郎 出演：佐伯亮、林田さくらこ、豊原功輔 (特別出演)、黒島結菜、大西利空 <2017年 / 日本 / 30分>

新人マネージャーと落ち目タレントのドタバタ・エンターテインメント。

就活に失敗し、渋々ながら芸能事務所に就職した芽衣は、元人気子役で、今では仕事ゼロの日比谷静の担当になる。そんな二人に舞い込んだ地方営業。ワガママな静を



上田 清司 埼玉県知事 (SKIP シティ国際映画祭実行委員会 会長)



奥ノ木 信夫 川口市長 (SKIP シティ国際映画祭実行委員会 副会長)



上段左から「はりこみ」板垣雄亮監督 / 池田香織 / 鳥谷宏之(出演)・「ぶっかつのじゅもん」白井太郎監督



国内コンペティション 審査委員長 榊井 省志氏 (株式会社アルタミラピクチャーズ代表取締役 / プロデューサー)



土川 勉 映画祭ディレクター

助監督や映画のスタッフとして現場を支えている方たち、俳優の方たちなど、本当に、映画を作る人たちの底辺が広がり、皆さんが自由に映画をつくられることを大変素晴らしいと思いますし、羨ましいと思いま

れたクリエイターの皆様には、この映画祭をきっかけに刺激と影響を与え合い、才能に一層の磨きをかけて大きくなっていただきたい。埼玉県と川口市では、才能の発掘だけでなく、様々な支援を用意している。若い才能を全力で応援して、ここ SKIP シティから世界に羽ばたき、映画界を席巻する新鋭を続々と誕生させたい。

◎奥ノ木 信夫 川口市長 (SKIP シティ国際映画祭実行委員会 副会長)

映画祭では、クリエイターの作品に対しての情熱や鋭い感覚と、最新のデジタル技術が融合することで生み出され優れた作品が多く、来場された皆様には、各部門のノミネート作品を鑑賞していただきデジタルシネマの魅力を十分堪能していただけたことと思う。この映画祭を、埼玉県と川口市が連携し、国内外でも屈指の映画祭に育てていきたいと考えている。来年も今年以上に盛り上げていきたいと思う。

◎土川 勉 映画祭ディレクター

本年度から規約を刷新した、国際コンペティション、国内コンペティション長編部門、短編部門の各受賞者の皆さまおめでとうございます。受賞作の中には、審査員同士が全く逆の解釈や評価をした作品もありました。映画とは、見る人間の人生観を反映するものであることを再認識しました。映画祭に参加していただいた全てのゲストと観客の皆さまに感謝を申し上げます。また来年もこの場でお会いしましょう。と締めました。

連れ、嫌々仕事に向かう芽衣だったが…。
●日本大学芸術学部の卒業制作として制作された本作。かつての人気を取り戻したい子役上りのタレントと、希望とは異なる仕事で不満だらけのマネージャーの成長物語を丁寧に描いているのは、現在制作会社で活躍中の白井太郎監督。学生の卒業制作の域を超えた豪華な役者陣が目を見張る。元人気子役・日比谷を、モデルとして活躍後、CM・ドラマに活動の場を広げた佐伯亮、彼を叱咤激励しながら自身も成長していくマネージャー・芽衣を大原櫻子(林田さくらこ名義での出演)が演じ、地方のイベントプロデューサーを豊原功補、その娘を黒島結菜、そのほか、大西利空、草刈民代、松本伊代などベテラン俳優たちが脇を固める。

■国内コンペティション 審査委員長 榊井 省志氏 (株式会社アルタミラピクチャーズ代表取締役 / プロデューサー) 総評
今回特に感じたのが、学生の皆さんから、

す。私は、たまたま審査員という立場ですが、皆さんと同じ、作り手のひとりに過ぎません。監督の皆さん一人ひとりの人生を、作品を通じて触れることができ、感動的でした。助監督やスタッフをされている監督の皆さんは特に、仕事、生活すること、映画を作るという両方の作業をされているわけで、大変苦労されていると思います。その中で、作品として、きちんとメッセージを発信されているということに、敬意を表します。今回、賞を逃した方も含め、今後、活躍されるということを私は確信しておりますし、ここに参加された方たちが、今後さらなる活躍をされることを、サポートしていきたいと思っています。

<主催者コメント>

◎上田 清司 埼玉県知事 (SKIP シティ国際映画祭実行委員会 会長)

本映画祭で受賞、あるいはノミネートされた作品が海外の映画祭で高い評価を受ける例が増えている。今年作品もまた、そのような期待が持てる。本映画祭に参加さ